

第1回 東近江市政策推進懇話会 【会議録要旨】

■日時：令和8年7月8日（水）午後2時30分から午後4時30分まで

■場所：東近江市役所301会議室

■出席者：計21名

委員 14名（欠席者2名）

深尾昌峰委員 矢島之貴委員 向 春美委員 谷川裕一委員 原 英児委員
井上由美委員 野口大輔委員 村田吉則委員 溝江 透委員 新居洋美委員
白銀研五委員 青地弘子委員 筒井 正委員 石橋幸昭委員
（欠席者：湯ノ口絢也委員 山崎 亨委員）

事務局 9名

企画部 部長 中堀智之 次長 古川 暁
政策推進課 課長 上林亜紀 課長補佐 福井敦教 係長 野神陽平
主任 古川祐磨 主事 横井耕純

1 開会

事務局	○お忙しい中御出席いただき感謝する。開会に当たり、企画部長から挨拶を申し上げる。
企画部長	○本日はお忙しい中、懇話会に御出席いただき感謝申し上げます。本市では、まちづくりの基本的な指針となる最上位の計画として総合計画を策定している。また、地方創生に関する総合戦略や定住自立圏共生ビジョンなど、各種計画を進めるに当たり、各団体の代表者で構成される本懇話会において様々な提言をいただけるようお願いする。
事務局	○（委員紹介、事務局紹介）

2 座長及び副座長の選出について

事務局	○東近江市政策推進懇話会要綱の第5条に基づき、委員の互選により座長及び副座長を選出することとなっているが、どのように選出するかお諮りしたい。
委員	○事務局一任。
事務局	○事務局案として、座長に深尾昌峰委員、副座長に矢島之貴委員を提案したい。
委員一同	○異議なし。
事務局	○それでは、座長は深尾委員、副座長は矢島委員にお願いする。
座長	○今年度は策定した計画を検証し、皆様からアイデアをいただく場となるので、活発な御議論をお願いする。

3 議題

【政策推進懇話会】（進行：座長）

(1) 各種計画について（資料3）

- ・事務局より資料3の説明

座長	○今の説明について質問・意見等があれば伺いたい。
委員一同	○質問・意見等なし。

(2) 地方創生に関する令和7年度の実績等について（資料4～6）

- ・事務局より資料4から6までの説明

座長	○今の説明について質問・意見等があれば伺いたい。
委員一同	○質問・意見等なし。

4 意見交換

テーマ「シティプロモーションについて」（意見交換用資料）

座長	○東近江市では、市が誇る豊かな自然の恵みや長い歴史の中で育まれてきた固有の歴史・文化をはじめとする、東近江市ならではの魅力を戦略的に発信するため、これまでからシティプロモーションの取組が行われてきたとのこと。 特に今年度、広報課や観光物産課、農林水産課に新たな係を新設し、部局横断でチームを組んで、全庁が一丸となって取組を一層強化している。
事務局	○（意見交換用資料の説明）
座長	○今の説明を踏まえ、各委員の所属業界における東近江市の県内での位置付けや市の自慢できるポイント等について、それぞれの意見をお聞きしたい。
意見交換の概要	
○都市部への移動がしやすい距離にあることは利点である。 ○自然が豊かで歴史的な神社仏閣が多いのが強みであるが、認知度が低いと感じる。 ○他府県から来られた方に地元農産物をPRできる機会が少ないと感じている。イベントなどにそうした機会を組み合わせることで、東近江市のPRになるとともに、定期的な購入にもつながるのではないか。 ○ふるさと納税の返礼品の更なる充実や寄附金の使い道の選択肢をもう少し拡充する必要があると感じている。 ○東近江市の名所や見どころをイラスト付きで冊子にまとめ、紹介してはどうか。 ○個々の魅力はたくさんあるがバラバラになっている。それらを一つのブランドとして束ねて発信することが重要だと思う。「千年の挑戦が息づくまち」といった表現など。 ○伝統産業（木地師など）を観光と結びつけるべきである。実際に工房で作っている様子を見てもらい、話を聞くとといった体験を提供することは観光コンテンツとなり得るとともに、伝統産業の振興につながる。 ○渡来人文化も一つのテーマとして発信できる強みである。 ○東近江市は見どころがありすぎるのが、逆に発信を難しくしているのかもしれない。 ○子供たちは地域に対して愛着を持っており、地域の方も教育に対して熱心であり、自慢できるのではないか。	

○小学3、4年生が社会科の学習で使用する「わたしたちの東近江市」という資料があるが、東近江市の概要についてあらゆる観点から分析、紹介されており、ぜひ読んでいただきたい。 ○ラチーノ学院の取組など、外国人市民との多文化共生は他市にはない大きな財産であり、これも自慢すべき点である。互いのことを知り、つながり合うことを考えていく必要がある。 ○多文化共生の推進は、地域の経済力の発展とも密接につながっている。 ○各地域（ex. 各地区まちづくり協議会）に文化や歴史をまとめた資料などがあり、地域の方々の熱意や努力、郷土愛が素晴らしい。 ○情報発信については、今の若者が使うSNSを意識して、楽しく体感できる形で届ける工夫が必要だと思う。その地域ならではの経験が、地域の魅力向上につながればいいと思う。 ○情報へのアクセス方法が変わっている中で、ホームページに掲載するだけでは不十分になってきている。どのように知ってもらうルートに乗せるか戦略的に考える必要があると感じる。 ○この地域の助け合いや防災訓練などのコミュニティの強さが、安心して暮らせるという大きな財産だと感じている。 ○生まれ育った人にとっては、その地域の良さというのは気づきにくいものである。シティプロモーションを行うに当たっては、外部からの感性を入れることも重要である。 ○市内には映画やドラマのロケ地に選ばれるところが多いが、メディアで取り上げられたものは広がりやすいと思う。SNSでは、自分の興味のあるものが「オススメ」で流れてくる。 ○災害が少ないことは大きな強みである。だからこそ多くの文化財が残っているという点と掛け合わせて発信すると、価値づけにより説得力が増すと思う。 ○一つ一つの観光資源を見ると、駐車場や食事をするところが少ないということで、点で考えるとなかなか人に来てもらえなかったりするが、もう少し視点を広げて面で考えてみると、足りないところを補い合うことができ、人が集まる地域にすることができるのではないかな。 ○地元企業との連携を広げ、企業が持つSNSやネットワークを活用した情報発信も有効だと思う。企業誘致や雇用確保の観点からも連携を深めるべきである。 ○業務上よく訪れる都市部や他自治体と比較しても、東近江市は住みやすいまちであると実感する。地域経済の成長と発展にも寄与できるよう、ここで育つ若者に地元の良さを感じてもらい、流出をなるべく防ぐため、官と民の連携と取組が必要である。 ○森林資源、特にスギ、ヒノキだけでなく特に広葉樹の活用注目してほしい。また、御池岳からの絶景など、素晴らしい自然景観をもっと市民にアピールすべきである。 ○イベントなどを通じて若い世代が育つ環境を作ることが大事である。若者と年配の方が交流しながら地域を知るような仕掛けが必要である。 ○大学生世代の若者と、小学校、幼稚園の子供たちが交流するイベントを企画し、その活動の様子をSNSで発信していくことが効果的だと考えている。 ○三方よしの精神やソーシャル企業認証制度など、地域の企業が持つ社会課題解決への取組も、東近江市ならではの強みとして発信できるのではないかな。	座長 ○東近江市の強みというテーマに対して、これだけ多様な意見が出てくるというのは素晴らしいことである。 ○強みが多様であるからこそ、個々に発信するシティプロモーションではなく、どのように束ねて見せていくか、また、ターゲットを絞って効果的に発信していくかという点が重要である。
---	---

	○皆様からいただいた御意見は、今後のシティプロモーションに役立てていただきたい。 ○それでは、進行を事務局にお返しする。
--	--

- ・司会進行を事務局に返す。

5 閉会

事務局	○貴重な意見をいただき、感謝申し上げます。以上で、第1回政策推進懇話会を閉会する。 ○次回は2月17日(水)14時30分から開催予定
-----	--

閉会